≪共に学ぶ≫ 第23回市民教養講座（2021, No3）

テーマ：火山の活動を探るー伊豆大島火山を例として

日時：2月27日（日） 10:00～12:00

会場： 旧若葉台西中学校木工室

講師：浜田盛久氏 （博士（理学））

国立研究開発法人 海洋研究開発機構 研究員

定員：40名（先着順、申込みはVOSC事務所921-0404）

受付期間9月1日～、定員になり次第締め切り

参加費：無料（コロナウイルス感染防止対策のため、マスク着用・上履き持参下さい。

日本は111の活火山を有する火山大国です。火山国・日本に住む私たちは、観光資源や地熱といった多大な恩恵を火山から受けてきた一方、火山噴火に伴う災害という禍も受けてきました。例えば富士山は日本のシンボルであり、信仰や芸術の対象として世界文化遺産にも登録されていますが、れっきとした活火山であり、これまで溶岩流、火砕流、降灰などによる数々の火山災害をもたらしてきました。1707年に起こった富士火山の宝永噴火の際、ここ横浜では約16cmの厚さの火山灰が降り積もりました。当時の横浜は寒村であり人口が少なかったため、被害は限定的だったと考えられますが、今再び同じことが起こったら、人口約380万人の大都市・横浜の都市機能は完全に麻痺してしまうでしょう。

本講演では、横浜に最も近い活火山の一つであり、次の噴火が差し迫っている伊豆大島火山を例として、火山をより良く知るための研究の一端を紹介します。そして火山国・日本において、私たちが火山と上手に共存していくための課題を考えます。

海洋の火山島 伊豆大島

主催：電子顕微鏡でミクロを観る会（連絡先 921-0404）

（本講座は東京応化科学技術振興財団の科学教育の普及啓発助成事業の助成を受けています）

@@

いつでも、どこでも、だれでも、いつまでもスポーツ・文化活動を

Vosc **若葉台スポーツ・文化クラブ**（若葉台4丁目34番1、VOSC事務所 ☎ 921ー0404）